

日本興亜9条の会たより

No.40

日本興亜9条の会事務局発行

(連絡先) 和田 典彦

2025

090-6523-1351

/04

nrhkwd1951@yahoo.ne.jp

戦後・被爆80年

いま訴える憲法9条は日本と世界の宝

世界がどれくらい破滅の危機に近づいているかを示す「終末時計」は、昨年より1秒すすみ「残り89秒」と過去最短となりました。冷戦時代の「残り2分」に比べ大幅に悪化しています。昨年ノーベル平和賞を受賞した日本被団協の田中熙巳代表委員は、オスロでのスピーチで核兵器の非人道性を訴え「人類と核兵器は共存できない」旨、強く発信しました。

一方で、日本政府は核兵器禁止条約に署名しないばかりか、条約の締約国会議へのオブザーバー参加も見送りました。また、「安保3文書」を閣議決定し、「敵基地攻撃能力保有」の名の下、5年間で43兆円もの軍事費という大軍拡への道を突き進み、自衛隊が在日米軍と一緒にアジアでの戦争に出撃できる体制構築が着々とはかられています。

戦後80年間一度も戦争に巻き込まれずに今日に至っている日本。今を「戦前」にしないよう日本国憲法第9条の値打ちを訴え、憲法9条を日本中に！世界中に！拡げる運動をともに進めましょう。

昨秋、大戦の激戦地沖縄へ 損保9条の会平和ツアー

損保9条の会のメンバー13名は、昨年11月末から12月初めにかけ、沖縄平和ツアーを実施し、沖縄本島にある九条の碑や戦跡地、慰霊碑等を訪れました。沖縄戦に思いを馳せ、想像を絶する戦争の悲惨さを実地に学ぶとともに平和の大切さ・尊さを目の当たりにしてきました。

「訪問した中でとりわけ強烈な印象を受けたのが糸数アブチラガマ。密閉された洞窟の中で、持参した懐中電灯を一齐に消すと漆黒の闇の世界が訪れ驚愕。そうした中で悪臭と汚物にまみれながら献身的に負傷兵の看護に従事していたひめゆり学徒たち。政府と軍部の愚かな判断で生じたこんな悲劇を再び起こしてはならないと痛感した」と参加者の感想があります。

損保9条の会沖縄平和ツアーの記録集は、ホームページに掲載していますので、ぜひご覧下さい。



[損保9条の会ホームページ \(somp9.org\)](http://somp9.org)

「大軍拡反対署名」、「折り鶴」 の取り組みにご協力下さい

◎『税金はくらしの拡充に、戦争準備の軍拡は中止して、平和、いのち、くらしを守る政治への転換を求める請願署名』（略称：大軍拡反対請願署名）に取り組みます。

- 署名用紙と返信用封筒を同封します。
- 署名は都道府県名から。同一住所であっても「同上」とか「〃」とせずにご記入下さい。
- 返送に要する切手代はカンパをお願いします。

◎今年の平和ツアーは「広島」です。

- 8月5日夕刻～8月6日午前中をコア日程として、現地集合・現地解散で実施しますので、全国どこからでも参加可能です。
- 参加ご希望の方は事務局和田までご一報下さい。
- コア日程前後に自由参加の小旅行も企画中です。

◎「折り鶴」作成に取り組みます。

- 「広島平和ツアー」にご参加いただけない方でも取り組み可能です。
- 大きさは15cm角の折り紙(包装紙利用も可)に統一し、糸を通して千羽鶴にしやすいよう“首の部分は折らない”をお願いします。
- 5羽、10羽といった少数でも結構です。
- 署名の返信封筒に同封いただければ幸いです。

5・3憲法大集会はみんなで有明防災公園へ



早めに到着し、お昼を食べながら開会(13:00)を待ちましょう

◆お弁当・飲み物・お菓子やレジャーシート、クッション、折りたたみ椅子などをご持参下さい。

●会場内の通路沿いに「損保の集合場所」を確保しています。

「損保9条の会」のぼり（青色に白抜き文字）を目印に。

●「有明口」と「有明口正面の通路突き当たり付近」の2か所に「損保9条の会」のぼり（青色に白抜き文字）を立て、ご案内します。

（「有明口」は左下案内図の  マーク地点です）

●会場へのご案内や「集合場所」のぼり掲示は12:40頃には終了します。

12:20頃までには「有明口」入口を通過して下さい。

特に開会後は会場内でのぼり掲示が制約され、目印が無くなる可能性大です。ぜひ早めのご来場をお待ちします。

◆終了後は、任意参加の懇親会を有明駅近くで企画しています。



アクセスマップ

【電車】

・りんかい線「国際展示場」駅から徒歩4分

・ゆりかもめ「有明」駅から徒歩2分

【都バス】

・門19甲系統「がん研有明病院前」バス停下車、徒歩2分

・東16系統「有明二丁目」バス停下車、徒歩7分

東京、門前仲町、豊洲駅などから乗車可。経路・本数、所要時間は事前に確認

損保9条の会 秋の講演会に154名

昨年10月19日（土）、損保9条の会・生保9条の会共催のシンポジウム「産業と平和について考える」を開催。会場の北とびあには154名が参加、日本興亜からも14名が参加しました。



オープニングは生保朗読の会「こだま」の皆さんが朗読詩「こわしてはいけない」「するめ味の戦争責任」を披露し、大きな喝さいを浴びました。

続いて5つの産業（損保・生保・海運・出版・銀行）出身者が、それぞれの産業と平和・戦争についてスピーチを行い、最後はジャーナリストの斎藤貴男氏の講演、質疑応答と充実した内容となりました。

恒例となった懇親会では、「海運や出版といった金融以外の産業の話が興味深かった。特に第二次世界大戦では船員は国家総動員体制のもとに強制動員され、多数の方が亡くなった歴史があり、いままた安保法制下で『民間人の船員』を『予備自衛官』に採用する制度が導入されていると聞き、大変驚いた」といった感想が語られました。

講演会全体は YouTube でご覧いただけます。損保9条の会のホームページ(sompo9.org)

→「トップページ」→「講演会・シンポジウム」→「損保・生保9条の会がシンポジウム開催